

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは、対人コミュニケーションにおいて、自分の思いを伝えるための※チャンネルを大きくは3つ持っているといわれています。

1つ目は「言葉」のチャンネルです。私たちは、動物の中で唯一言語をもっていきますから、言葉を通じて思いを伝えたり、受け取ったりすることが可能です。

そして2つ目が①「身体」のチャンネルです。これは目から入ってくる情報です。その人の身だしなみによって「きちんとした人」「だらしない人」などと判断したり、机に座った姿勢や態度をみてやる気がある、ないと感じる、といったこともこれにあたります。また表情も大きなコミュニケーション※ツールです。相手の表情をみて、嬉しいのか、悲しいのか、悔しいのか察することができます。私は表情に関する研究をしていますので、表情が与えるコミュニケーションへの影響についてはA気になるところです。

最後が「声」のチャンネルです。これは、耳から入ってくる情報です。声の大きさや力強さ、トーンの高低などです。どんなに良いスピーチでも小さな声でぼそぼそと話しては、自信がないように映ります。また、B元気がない時は、声のトーンも低くなりがちです。電話に出た瞬間の「もしもし」で「何かあったの」と心配されたりすることもありますよね。

このうち「言葉」を使ったコミュニケーションを言語コミュニケーション、「身体」「声」を使ったコミュニケーションは、言語以外で行うコミュニケーションという意味で非言語コミュニケーションといわれています。

このように相手が目の前にいて行う対人コミュニケーションでは、意識してもしなくてもこの3つのチャンネルを使って、

相手の思いを受け取ったり、自分の思いを伝えたりしています。コミュニケーションというのと、「言葉」を介して行うもの、という印象があるかと思いますが、実は②それだけではないのです。この3つのチャンネルが相互に補完し合いながら、的確に相手に意図を伝えています。

例えば、ファミレスでCテーブルにお水をこぼした店員さんが、「大変申し訳ございません」と言葉では謝っているにもかかわらず、語尾も強く、お辞儀もせずにつてくされた表情を浮かべていたらどうでしょう。謝罪の気持ちが伝わるとは到底思えません。

このように言っていること（言語）と伝え方（非言語）にギャップがあると、この人本当のことを言っているのかな？と相手に対して※懐疑的になります。

そして、言葉は意識的に操れますが、非言語は思いのほか本音が出やすいので、意識しないと「私は悪くないのに。あなたが手を出してきたからこぼれたのよ。面倒くさい」というような思いが、非言語によって相手に伝わってしまうのです。

逆に、言葉は「すいません……」でも、深々とお辞儀し、本当に申し訳なさそうな表情を浮かべていたら、それでも充分に謝罪の気持ちは伝わるものです。わかりやすく少し大きめに書きましたが、③私たちはつい言葉に頼るあまり、それをどう伝えるかに注意を払っていないことも多いのです。

そのようにコミュニケーションにおいては、意識しても無意識でも、言葉だけでは伝えられない思いを3つのチャンネルで補完し合っています。このチャンネルが少なくなればなるほど、当然のことながら、的確に思いをやり取りすることは難しくなってきます。

「身体」のチャンネルが減ったコミュニケーションといえば、何を思い浮かべますか。そう、「電話」です。表情や身振り手

振りが伝わりませんから、「言葉」と「声」のチャンネルを駆使する必要が出てきます。最近では、※スカイプなど、「身体」のチャンネルを補うツールも出てきました。

そして「I」と「II」のチャンネルが減り、「III」だけのコミュニケーション、といえ、皆さんの年代ですぐに思いつくのは、日常的に使っているメールや※LINEなどのSNSだと思えます。ですから、この便利なツールはコミュニケーションを取る上で最も難易度が高いことを理解してください。

目の前にいる友達に「ごめんね」とひと言で済むことも、SNSだと付け加えなければ伝わらないことも多そうです。絵文字やスタンプのないSNSを想像してみてください。これは、かなり使いづらそうです。絵文字やスタンプはただ可愛いだけではなく、言葉だけでは伝わらない微妙なニュアンスを伝えるために実は非常に重要な役割を果たしているのです。

④ 非言語のコミュニケーションの重要性を知ってもらえただし
ようか。

自分の思いと表情は一致していますか。相手の話をきく時につまらなそうな態度をしていませんか。あらためて振り返ってみましょう。

コミュニケーションはキャッチボールによくたとえられます。上手くキャッチボールを続けるために気を付けることは何でしょうか。それは、ひと言でいうなら⑤ 相手が取りやすい球を投げることです。剛速球を投げつけたり、相手に届かないような弱々しい球を投げたり、手を伸ばしても届かないような方向に投げたりしても相手にはキャッチしてもらえません。

相手に合わせて、きちんと相手が受け取れるように球を投げる
ことが大切なのです。

（安部博枝 『自分のことがわかる本』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

チャンネル …… 情報を得たり、意思を伝達したりする道筋。
ツール …… 道具。

懐疑 …… うたがいをもちこと。

スカイプ …… インターネット電話サービスの一つ。テレビ

電話ができる。

LINE …… 文字によるメッセージや写真、動画のやり取り

などができるサービスの一つ。

SNS …… ソーシャルネットワーキングサービスの略称。

インターネットを利用して、個人が社会的ネット

ワークに参加できる、コミュニケーション型のサ

ービスのこと。

問1 ———— 線① 『身体』のチャンネルとありますが、こ

の例としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記
号で答えなさい。

ア 身だしなみ

イ 表情

ウ 姿勢

エ 声の大きさ

問2

□A□
□C□
にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア うっかり
- イ ことさら
- ウ きつと
- エ ちよつと

問3

——線②「それだけではない」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア コミュニケーションとは、相手に自分の思いを伝えることだけを指すのではなく、相手の思いを受け取ることも含むということ。
- イ 対人コミュニケーションにおいては、無意識のうちに表情や仕草だけで、相手に思いを正確に伝えてしまうということ。
- ウ コミュニケーションとは、言葉だけでなく、身体と声を合わせた3つを使って、思いや考えを伝え合うものだということ。
- エ 対人コミュニケーションは、言葉がなくても身体と声のチャンネルさえあれば成立し、的確に思いをやりとりすることができるということ。

問4

——線③「私たちはつい言葉に頼るあまり、それをどう伝えるかに注意を払っていかないことも多いのです」とありますが、それによってどのような問題が起こっているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 発言内容に表れる感情と伝え方に表れる感情に差が生じ、本当に伝えたいことが相手に伝わらないという問題。
- イ 話し方や書き方など形式的なことばかりを気にして、考
えの浅い人間だと誤解を与えてしまうという問題。
- ウ 礼儀を知らない人だという悪い印象を与えてしまい、自
分のことを正確には理解してもらえなくなるという問題。
- エ 言葉で伝えられる内容ばかりをうのみにして、結果的に
相手の気持ちを無視してしまっているという問題。

問5

□I□
□III□
にあてはまることばを、文中からぬき出してそれぞれ答えなさい。

問6

——線④「非言語のコミュニケーションの重要性」とは、具体的にどのようなことですか。文中のことばを使って、三十五字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問7

線⑤「相手を取りやすい球を投げる」とは、コミュニケーションにおいてどのようにすることですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手がいつでも、どんなことでも話しやすいように、やわらかい態度を心がけて、熱心に耳をかたむけること。

イ 言葉にこめた思いと、表情や声などに表れる思いを一致させて、自分の考えを誤解なく相手に伝えること。

ウ 自分の考えに賛同してもらえるように、相手の知っている言葉を選んで、わかりやすく順序立てて話すこと。

エ 相手が自分と気持ちよくやり取りできるように、相手の興味ある話題を交えて、わかりやすい表現で会話すること。

問8

本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア SNSは便利なツールだが、コミュニケーションを取る上で最も難易度の高いものなので、あまり使うべきではない。

イ 表情よりも言葉や声の方が、無意識のうちにその人の本音を伝えやすいものである。

ウ 電話でコミュニケーションをとる時は、表情や仕草が見えない分、言葉や声での確に伝える努力が必要である。

エ 言葉で伝える内容に気を配るよりも、伝える時の表情や姿勢に注意を払わないと、無用な争いが起こるだろう。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学三年生の太輔は、交通事故で両親を亡くし、おじさんとおばさんに引き取られたが、暴力や嫌がらせを受けたため、児童養護施設「青葉おひさまの家」で生活するようになった。太輔が所属する班のまとめ役で中学生の佐緒里は、施設に入りたての太輔のことを気にかけていた。施設では毎年※バザーを開催し、売上げ金で旅行するのが恒例行事になっていた。今年のバザーでは手作りの※キルトグッズを販売する予定だったが、当日、誰かに全てのキルトをやぶられたり切られたりしたことで中止が決まった。太輔は部屋にもどらず、施設の裏庭にある小屋へと向かった。

「……三年くらい前まではね、この小屋でチャボ飼ってたんだって。太輔くん、チャボ、知ってる？」

おでこを腕に載せて体操座りをしていたから、佐緒里がすぐそばにすることに全く気が付かなかった。

「小さいにわとりみたいなの。けっこう大きいよね、この小屋」

雑草が生え放題の小屋を見ながら、佐緒里が「卵産むから、たまにみんなでおムレツとか作って食べてたんだって」とつぶやいた。

「太輔くん、私のこと嫌い？」

太輔は思わず顔を上げた。無言のまま首を横に振る。

「じゃあ、ここ、いい？」

一度、太輔は短く頷いた。佐緒里が隣に腰を下ろしたことで、**A**に力が入っていた全身から、ふっと力が抜ける。おしりがちゃんと地面に落ち、背中と壁が触れる面積が広がった。おしりは土で、背中は壁の粉で汚れているだろうけど、そんなことはどうでもいい。

「太輔くん、そのアニメ好きなの？」
佐緒里が、太輔の胸のあたりを指さした。

「いつもそのTシャツ着てるから。お気に入りなのかなって」
服をあまり持ってこなかったのと、それがお気に入りだという理由で、太輔はここに来てから一日おきに同じTシャツを着ている。胸のあたりでは、あるアニメの主人公が剣を手にして笑っている。

うん、と、声は出さずに頷く。

「私もそれ好き」

小さな虫が、土や草の上を飛んだり跳ねたりしている。蟬の鳴き声がうるさい。

「旅行、なくなっちゃったね」

① 心臓の周りの血液だけが、ぼこつと沸騰した気がした。

また、体じゅうに力が入る。気づかれている。気づかれていない。気づかれている、の方向に、意識のかたまりがごそつと動く。

「私、蛍祭り行きたかったんだ。だからちよつとラッキーかも」

ラッキーなんて言っちゃダメか、と、佐緒里が少し笑った。

「……おれも、蛍祭り、行ってみたい」

勇気を出して声を振り絞る。

「ほんと？」佐緒里は声を高くした。「じゃあ、一緒に行くおう？」

私、屋台とか大好きなんだ」

② 行きたい、と言いかけて、喉がぎゅつと締まった。

「でも、家族がいないと、蛍祭り、参加できないんだって」

「……誰がそんなこと言ってたの？」

佐緒里は、腰を少し動かして、その場に座り直す。

「クラスみんな。あと、淳也も」

校舎の案内、という理由で教室を抜け出せなくなってから、もうしばらく経つ。※長谷川たちはことあるごとに、淳也を傷

つけようとす。蛍祭りの話になったときは、お前たちは行く資格がない、と言ってきた。※願いとばしは家族でやるものなんだから、と言いながら、長谷川は教室のロッカーの上であぐらをかいていた。

淳也は、クラスメイトに何か言われるたびに、ちらりと太輔のほうを見て申し訳なさそうに眉を下げる。自分が浴びせられた言葉で、間接的に、太輔も傷ついていると思ったのかもしれない。

「本当にごめんね、またよろしくね」※みこちゃんの声が玄関のほうから聞こえてきた。やることなくなくなってしまった手芸クラブの子たちが帰っていく。他にも、バザーがあると思って「青葉おひさまの家」を訪れた人々に、大人たちが謝っている声が聞こえる。

大丈夫だ、絶対に誰にも見られていなかったはずだ。

なのに、見えない何かが、すぐそこまで迫ってきているような気がする。

「……太輔くんの給食袋、すごくかわいいよね」

膝のうらを汗が一筋伝っていく。Bのスニーカーの周りを小さな蟻が忙しく歩き回っている。

顔がどんだん下に向いていく。首筋が太陽に焼かれる。

もうダメだ。

③ 「太輔くんのお母さん、キルト作るの上手だったんだね」
バレた。

「だって」

太輔は両腕でぎゅつと足を引き寄せた。

「だって、キルト作れるのは、お母さんだけなんだもん」

靴底と砂が擦れて、周りをCと動いていた蟻たちが離れていく。

「キルトは、お母さんが作らないとダメで、だけど、キルトが

見つかつたらおばさんにもおじさんにも叩かれるしずっとずつと叩かれるし、隠さなきゃって、キルトだつてわからないようにしなきゃって」

「太輔くん」

「それに、旅行に行つたら、お母さんとお父さんと約束してた蛍祭りに行けなくなるし」

「太輔くん」

たいすけ、という自分の名前の音の響きが、佐緒里のてのひらの熱に包まれた。いつのまにか佐緒里は、太輔の頭を撫でてくれていた。

「大丈夫、大丈夫」

大丈夫なわけはないと思つた。悪いことをしたら、お父さんは怖い顔をして怒つた。お母さんは、小指をピンと突き出した。もうしないって約束して、と、太輔に向かつて小指を伸ばした。でも、お父さんもお母さんも、太輔のことを絶対に叩かなかつた。

「だけど、もう二度と④こんなことはしちやダメだよ。みんなが作ったものを壊すのは、絶対にダメ」

だから、と、佐緒里のてのひらが頭を離れる。

「もうしないって、約束して」

目の前にあつたふたつの膝の間に、佐緒里の細い小指が入り込んできた。

太輔は今日から野菜をちゃんとかんで食べます。ハイ、約束ね。

「……ごめんなさい」

ん？ と、佐緒里が声を漏らす。

「野菜、ちゃんとかんで食べないで、ごめんなさい。よくかんで食べるから、もうお茶で流さないから」

大きな蟬の声は、大雨の音に似ている。

「おれが約束やぶつたから、⑤お母さんもお父さんも、帰つてこなかったんでしょ？ もう約束やぶらないから。ぜつたいに守るから」

太輔は目に力を込める。

「一緒に、蛍祭り行こうね」

この人の前で、泣きたくない。

「家族がいないと参加できないなんて、そんなわけないよ」
⑥約束ね、という佐緒里の声が、お母さんの声と混ざつて、頭の中で溶けた。

（朝井リョウ 『世界地図の下書き』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

バザー …… 持ち寄つた品物をその場で売るイベント。

キルト …… 布をぬい合わせ、間にうすい綿を入れたもの。

淳也 …… 太輔と同じ「青葉おひさまの家」で暮らす同級生。

長谷川 …… 太輔と淳也のクラスメイト。

願いとばし …… 蛍祭りでの行事。

みこちゃん …… 「青葉おひさまの家」の職員。

問1 — A — C — にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア ぼろぼろ イ ちよろちよろ ウ かちかち

問2 — 線① 「心臓の周りの血液だけが、ぼこつと沸騰した気がした」とありますが、この時の心情として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 安心 イ 緊張きんちやう ウ 困惑こんわく エ 興奮

問3 — 線② 「行きたい、と言いかけて、喉のどがぎゅつと締しまった」のはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 長谷川たちのことばが思い出されたから。
イ 長谷川たちも蛍祭りに来ることを知っていたから。
ウ 佐緒里をわがままに巻き込みたくなかったから。
エ 自分だけの都合で参加できるものではないから。

問4 — 線③ 「バレた」とありますが、誰の、どのようなことが「バレた」のですか。答えなさい。

問5 — 線④ 「こんなこと」とありますが、太輔が「こんなこと」をした理由としてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア キルトはお母さんが作るものでないと、認めたくなかったから。
イ お母さんとの思い出がすべて消えてしまいそうな気がして、許せなかったから。
ウ バザーが中止になって旅行に行けなくなれば、蛍祭りに行けると思ったから。
エ キルトを作ることによって、お母さんとの出来事が思い出されたから。
オ 施設の人たちと親しくなることができず、キルト作りがおもしろくなかったから。

問6 — 線⑤ 「お母さんもお父さんも、帰ってこなかった」とありますが、太輔はその原因をどのように考えていますか。文中のことばを使って三十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問7

——線⑥「約束ね、という佐緒里の声が、お母さんの声と混ざって、頭の中で溶けた」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 佐緒里の声とお母さんの声が同じように聞こえてきて、いとしく思えたということ。
- イ 佐緒里の声とお母さんの声がくり返されて、なつかしい気持ちになったということ。
- ウ 佐緒里の声とお母さんの声がよく似ていて、うれしかったということ。
- エ 佐緒里の声とお母さんの声がかさなって、心が落ち着いたらということ。

問8

佐緒里は、太輔にとってどのような存在だと考えられますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 悪いことをすれば、口うるさくしかつてくれる人。
- イ 寄りそって話を聞き、気持ちを理解してくれる人。
- ウ 困ったことがあれば相談に乗って、応援してくれる人。
- エ 気がすむまで考えを聞いて、協力してくれる人。

問9

文中の表現を説明したものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 三年前の回想から現在の出来事へと展開され、精神的に大きく成長した太輔の様子が語り手の目線で表されている。
- イ テンポ良くはずむ太輔と佐緒里の会話が、次の展開を期待させ、めまぐるしく変化する太輔の心情を表している。
- ウ 「小さな虫」「蟻」「蟬」などについての内容が、太輔のゆれ動く心の不安や記憶とつながるように表されている。
- エ 佐緒里のことばにうまく答えられない太輔の反応が、年上の女性に抱く恋心を表している。

三 次の漢字には複数の訓読みがあります。その読み方を例にならって、送りがなをふくめて二つずつそれぞれ答えなさい。

(例) 増 答え：ふえる・ます

- ① 調
- ② 断
- ③ 歩
- ④ 重
- ⑤ 試

四 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 有効な外交セイサクを計画する。
- ② 店のカンバンをかかげる。
- ③ 文化祭のジュンビを進める。
- ④ ノウハを測定する。
- ⑤ トウジは一年の中で一番昼が短い。
- ⑥ 偉大な功績を残す。
- ⑦ 父の教えは大変厳しい。
- ⑧ 小売店を営む。
- ⑨ 部品が一つ欠落した。
- ⑩ 国道に沿って歩く。

これで問題は終わりです。